

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カワタイル		
事業所名	グループホームよこせ	ユニット名	
所在地	長崎県西海市西海町横瀬2762番地2		
自己評価作成日	2021年10月15日	評価結果市町村受理日	2022年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	ps://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topiigyosyo_index=t
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年月日	評価確定日	2021年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ「グループホームよこせ」は木々の緑に囲まれ自然豊かな所にあります。また、家が点在し施設前の道路は西海北小学校の通学路となっており、登下校時は元気な子供の姿が見られ恵まれた環境の中にあります。職員は理念に基づいて人格、人権を尊重して、楽しく生活ができるように努力しています。帰宅願望がある方に対しては傾聴し、一緒に近所を散歩したり、また、自宅まで行き少しでも不安を和らげるようにしています。地域との交流は、新型コロナ感染予防のため今年度は実施していませんが、横瀬保育所との芋ほり、横瀬自治会の敬老会等に参加し交流を図っています。また、地域の方より野菜、果物等を頂いて入居者に提供しています。地域の方とは関係づくりができています。災害対策については、地元消防団等との訓練を行い、災害時には地元消防団に協力をもらうことができるようになっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームよこせ”では、日々穏やかな時間が流れている。ソファで音楽を聴かれる方、猫が寝そべっている様子を見ながら話し掛けたりと、ご本人のペースで過ごされている。ご利用者も一緒にホームの畑で野菜の収穫作業をされており、理念にある「共に助け合い、共に生きる。出逢えた事の喜びと、これからの一生を大切に」の実践に繋がっている。長く勤務する職員も多く、穏やかなお人柄の管理者と元主任を中心に職員が結束し、コロナ禍においても楽しさを増やす取組を続けてこられた。運営者も明るい方で、職員の実状を理解し、様々なサポートをしてくださっている。コロナ前は横瀬保育所の行事やホームの畑での芋ほり交流会を行い、西海北小学校との交流、横瀬郷(2区)総会や横瀬郷敬老会等に参加していたが、コロナ禍も近所の方や保育所の所長さんと、「お元気にされていますか？」等の言葉を掛け合える関係が続いている。2021年6月に定年退職された介護支援専門員の意思を引き継ぎ、今後も引き続き、地域交流の機会を作っていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	〇	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	〇	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	〇	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	〇	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	〇	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	〇	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目にとまる場所である事務所、休憩室、トイレ等に掲示しており、職員が常に心に置き、毎日の業務に就いている。また、適宜振り返りを行っています。	「共に助け合い共に生きる」という理念もあり、ご利用者に役割を担って頂いている。窓越しの面会を含めて家族との協力関係も深めており、「出会えたことの喜び、一期一会」を大切にされている。課題が発覚した際も、早期改善に繋げるよう職員個々との会話を続けており、新しく入職された介護支援専門員のお人柄もあり、更に良きチームになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、ドライブ等に行ったり、近所を散歩して地域の方と挨拶、話しをしている。	コロナ以前は保育園や小学校との交流・地域総会や地域行事、地域自主防災組織の集まりに参加されていた。コロナ禍も地域の方から野菜(かぼちゃ・芋)や果物、スイカ等の差し入れがあり、回覧板(地域情報・行事中止のご案内・犯罪情報など)を持ってきていただいた時に会話をされている。毎月、小学生が小学校の便りを届けに来て下さっている。	今後も地域住民や保育所、小学校等との交流を図っていきたいと考えている。 ①クリスマスや正月の機会に、小学校や保育園等にメッセージカードや年賀状のやり取りを行えるよう計画していく予定である。 ②カフェなどを定期的に開催し、家族や地域住民との交流を深め、ご利用者が生きがいや楽しみを持って生活でき、地域に開かれた施設を目指していきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会等を通してチラシを作成しお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	西海市長寿介護職員、西海市社会福祉協議会職員、横瀬保育所職員、民生委員児童委員、地域の方、ご家族代表、入居者代表が参加し、活動を報告し、それぞれの意見を業務に生かすようにしている。	コロナ禍は書面会議を行い、ご利用者の生活状況や行事等を書類で報告しているが、地域の感染状況に応じてホームでの開催も検討していく予定である。日々の取り組みの報告や身体拘束適正委員会も一緒に行い、参加者の方々に報告している。地域の方と「どがんしょうね」「感染予防しながら頑張りましょう」等の情報交換を続けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話にて活動等を報告し、生活保護関係でご連絡頂いたり、ご意見を頂き信頼関係を築いている。	管理者が市役所を訪問したり、不明点を電話で相談している。コロナワクチン接種に係る申請や感染症緊急包括支援交付金に係る手続き、PCR検査の相談等を行い、適宜アドバイスを頂いている。地域包括から入居希望の方の相談もあり、入居までの期間も、介護支援専門員が電話で家族の方に生活状況等を確認している。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の職員定例会で身体拘束をしないと周知している。外部者の侵入防止と入居者の癒しのため施設内で猫を飼っているため玄関の施錠している。	「身体拘束は絶対にしない」方針である。スタッフの優しい寄り添い等で穏やかに過ごされる方が多く、ご利用者の行動背景も分析している。内部研修や長崎県権利擁護推進養成研修を受講し、職員会議の際に身体的拘束適正委員会(施設長・管理者・介護スタッフ・苦情第3者委員)を行い、身体拘束をしようメンタルやケアに向き合う姿勢を職員全員で共有している。今後も運営推進会議を開催時に、「身体拘束廃止」「虐待防止」等の情報提供を行っていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の職員定例会で常に虐待をしないと職員間で共有している。また、スタッフが、ストレスをためないように業務改善等も試みています。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は対象者がいませんが、毎年職員が研修に参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレット、重要事項説明書等をもとに十分説明し、理解、納得していただいている。また、質問等あればいつでも対応させて頂くよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に生活状況を報告し、要望等を聴き施設運営に反映できるようにしている。今後は面会に出来ない家族の方にも電話にて状況報告して要望等聴きたい。	コロナ禍も市内等の感染状況に応じて、玄関先や窓越しの面会を行っている。ホーム便りを作成し、電話で家族と情報交換(暮らしぶり)を行い、日々の生活や行事等の要望を伺っている。病院受診の同行時に家族と情報交換できる方もおられる。「自宅に帰りたい」と言う事で、外出できた方もおられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて職員の意見や提案を聞き反映させているがさらに充実させたい。	運営者は明るいお人柄で、毎月の会議に参加して下さり、職員のストレスに気を配って下さる。勤務希望や給与、物品購入などの要望を受け止めて下さり、「できること」「できないこと」の説明も丁寧にして下さる。管理者も常にホーム運営とスタッフに気を配り、運営者との情報交換に努めている。	管理者は職員個々の得意な事などを理解している。今後も日々の業務を振り返り、職員の更なる役割分担や能力発揮に繋げていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭状況、体力面等十分配慮し働きやすい環境を作っています。		

13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を向上できるように研修計画を立てており、今年度もリモート研修に積極的に参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの感染防止のため今年度は実施できていない。今後は感染状況をみて判断したい。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人及び家族に話を聴いて、コミュニケーションを図る時など本人の生活歴を大切に、無理強いすることなく心を和らげ安心して生活ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と共に生活自立支援を行う事の意義等を説明し、施設サービスを導入する時には、家族等と話しを十分聴いて、家族等の不安を取り除けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャー主となりアセスメントを十分行い、職員間で情報を共有して、ご本人の思いと環境が違いがあることもあり、要望の聞き取りを行うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の理念のひとつである日常生活の中で、入居者様、スタッフ共に助け合いますとある様に、本人のできることを職員とともに行い、生活に生きがい、楽しみが持てるように努めています。		

19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの感染症に配慮しながら家族の方に面会に来てもらい、施設での生活状況を報告し、家族からは要望等を聴き共に支え協力頂ける様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの感染症予防のため十分ではないが、生まれ育った自宅や釣りが好きだった入居者には釣りをしている場所まで連れて行って、昔を回想している。自宅に行った時には近所の人と会話をしている。	ご利用者の生活歴を把握している。コロナ禍も自宅にお連れして庭先で写真を撮ったり、馴染みの港の場所等にドライブし、「〇〇を釣りよった」「来れて良かった～」等のお声を聴いている。病院の待合室で馴染みの方と再会する時もある。コロナ前は地域行事や馴染みの商店にお連れしたり、家族とお墓参りや外出に行かれていた。	今後はテレビ電話(LINE等)で面会する方法などを検討したいと考えている。ご利用者から「お墓参りに行きたい」という希望もあり、職員が現地(お墓)に行き、そこからテレビ電話(LINE等)でご本人にお墓を見て頂くなど、色々なアイデアを出し合い、ご本人の笑顔に繋げていく予定である。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファを適当な場所に置いて利用者同士が座って談話をしたり、音楽を聞いている。利用者の性格が一人ひとり違うので、食事や体操時は座る場所の配慮をしている。食事、水分補給時以外居室で過ごすことも多く、孤立にならないように努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的処置が長期期間必要となった場合、当ホームのサービスの契約は終了となりますが、必要に応じて、ご家族様とご本人の経過を共有しながらご本人にとって必要なサービスを関係機関との連携を図り支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケアの基本精神により、一人ひとりに寄り添い希望、意向の把握に努めている。	入居前に病院訪問等を行い、ご本人と家族の想いを理解すると共に、医師からもお話を聞いている。日々の生活の中で何気ない会話や動作、表情や仕草などをスタッフ間で共有すると共に、ご本人の特技、趣味などを把握して、ホームでの生活に活かしている。家族の方々と情報共有し、日々のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供前又は提供後もご家族、ご本人に生活歴等また、サービス利用の経過等随時聴き取り把握するよう努めています。		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回の職員会議、毎日の申し送り、毎日のサービス提供するにあたり様子観察を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の希望気持ち、また、生活状況を確認し、職員同士で共有し、職員会議の中で話し合いを行い、ケアマネジャーが介護計画を作成している。	生活歴(仕事・趣味・特技等)を把握している。洗濯・買物・調理などを含め、「いつまで行っていたのか」等の入居前の情報収集と共に、「生活の質」の視点も大切に「友人と近所を散歩していた」等も記録に残している。生活歴や日課を踏まえ、有する能力やお好きなことを計画に盛り込み、移動時の留意点なども記載している。今後も認知面のアセスメントを深め、原因・要望・解決策を追加すると共に、日課表も作成していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活のなかで、気になること変化があれば常に生活日誌に記録し、また、生活日誌にケアプランの内容を載せている。連絡ノート、引継ぎ等で職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が美味しく食べられるように、毎日の献立に嗜好品を加えている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナの感染予防のため実施できていないが、近くの保育所との芋ほり等の交流を実施しており、本人の楽しみのひとつになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の話し合いにより主治医を決めている。定期通院に関して家族で対応できる場合は、家族にお願いしているが、難しい場合は職員が対応している。また、日頃の状態や気づきの情報共有を図り、主治医の指示を会議等で全員で共有しています。	日々の体調確認を行い、気になる事は家族に連絡し、早期受診している。受診時は職員や家族が同行し、日々の体調などを医師に報告し、体調に応じて減薬に繋げる事もできている。体調変化時は家族に同席頂き、医師からの説明を聞いて頂いており、かかりつけ薬局との連携もできている。かかりつけ医の受診と共に、病状によっては専門医を紹介して下さっている。2021年度は社協の管理栄養士と連携し、献立チェックをして頂いている。	

31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師はいないが、定期受診時主治医に日頃の生活状況を報告している。また、必要時電話にて状況を報告し指示を受けている。主治医、看護師等に相談しやすい環境作り努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーが定期的に電話にて看護師等に状況を確認して、いつでも受け入れることができるようにしている。また、情報交換を密にして病院関係者との関係づくりを心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しずつ食事摂取量が少なくなってきたり体力の低下がみられる場合には、家族、病院に状況を報告し、家族の気持ちの把握と病院からの指示を受けている。	「できるだけ長く、ここで暮らしたい」と希望する方が多いが、往診体制が無く、看護師が勤務しておらず、ホームでの看取り支援はできない事を入居時に説明している。医療ニーズが高い方は適宜医師に相談し、入院ギリギリまで家族と協力し、誠心誠意のケアが行われている。歯科医師、歯科衛生士の往診があり、日々の口腔ケアに活かしている。	コロナ禍が続く、自宅への外出なども制限されている。今後もご利用者の死生観(今後の人生)を大切に把握し、マイナスな気持ちにならないように寄り添いを続けると共に、家族の方々と人生会議を行える環境作りに取り組んでいきたいと考えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルスの感染予防から今年度は実施していないが、今後は消防署から来て頂いて研修会を開催し応急手当や初期対応の訓練を行い、事故発生時に適切に対応できるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域防災組織と連携し訓練を実施している。災害時には地元消防団の協力をいただけるように体制を作っている。台風時等は夜間複数人で施設に待機し災害時に対応できるようにしている。火災に関してはコンセントに埃が溜まっていないか常に確認している。調理時はそばを離れないように徹底している。	ハザードマップ上は特に危険性は想定されていないが、防災チェックを毎日行い、雪対策で貯め水等もしている。毎年11月9日(防災の日)に、消防団や地域の方と夜間(19時)の訓練を行っている。2020年夏の台風で18時間停電し、備蓄の重要性を痛感し、2021年度は準備万端で台風への対応が行えた。お米、飲料水、飲料水以外の水、食料(缶詰、即席味噌汁、カップ麺等)、懐中電灯、停電時の補助電源(45分使用可能)を準備しており、近くの電気水道工事業者「やまでん」から発電機を貸与する手配もできている。BCPIに関する資料も確認しており、今後も施設長を含め計画作成を行うメンバーの検討を行う予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしているが、他の入居者のいるところで、「トイレに行きましょう」と言葉かけをすることがある。	今年度の標語「芽くばり 気くばり 心くばり」を大切に、ご本人のできることを探して、出る芽を摘まないようにしている。ご利用者個々の行動や心理を丁寧に観察し、さり気ない個別ケアを続けている。方言も使いながら、笑顔で丁寧な言葉遣いで会話をするようにしており、トイレ介助の際は、他の方にわからないように配慮すると共に、必ずドアを開けて介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり、自己決定ができるように、職員が心にゆとりを持って傾聴し、自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちペースを大切に支援している。食事の提供時間は決めているが、本人の気持ちペースを尊重し無理に決まった時間に食べてもらうことなく、本人の気持ちを尊重し時間をずらして食べてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着替えは職員がほとんど準備している。洗面台に櫛を置いて、髪を整えている。散髪を希望される方は対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養のバランス、好みを考慮して作っている。献立に対して入居者の意見を聞いている。もやしのひげ根り、大根おろし等をしてもらっている。また、味見をしてもらっている。食後は、食器洗い、おしぼりたたみをしてもらっている。	管理栄養士が作成した献立を基に食事が作られていたが、前回の外部評価以降、実際の料理内容を見直すと共に、2021年9月に社協の管理栄養士に献立チェックを依頼している。ご利用者と一緒にホームの畑のお芋や大根を収穫し、ツワの皮むき、饅頭作り、漬物作り、干し柿作り、下膳、テーブル拭き、茶碗洗い等をして下さる。嚥下状態に応じてトロミを付ける方もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事摂取量の記載により、好みを分析し献立の参考にしている。また、献立に対して、社会福祉協議会の管理栄養士の助言を受けている。水分摂取量が少ない方には本人の好みに合わせジュース等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕は口腔ケアを実施しているが昼食後は実施していない。歯科医院より往診にきていただき処置、指導を受け口腔ケアの向上を図っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の時間、失禁した時間の記録をして、どのくらい時間をおいて排泄しているか把握に努めて、排泄の自立に向けた支援を行っている。	失禁予防体操を取り入れている。下着を着用し、排泄が自立している方もおられ、パットの必要性の検討も続けている。排泄感覚や、ご利用者個々のしぐさを察知し、個別のトイレ誘導を行い、陰部清拭は毎朝行っている。希望や体調に応じてホータブルを使用していた方も、ケアマネの提案でトイレでの排泄ができるようになった方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行っているが、歩く機会が少ないので廊下歩行や近所を散歩することで歩くことで便秘予防に努めている。また、歩く大切さを説明している。飲食物に関しては、嗜好品としてヨーグルト、ゴボウ茶、納豆等を提供して便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合により曜日、時間帯を決めているが、本人が入浴を拒否する場合は時間をずらしたり、翌日に入浴してもらっている。	月～土曜日まで入浴日にしており、最低週2回は入浴できるようにしている。希望時は入浴でき、便失禁の際は適宜シャワー浴を行い、足浴効果で水虫の治癒に効果が出ている。お風呂好きな方が多く、湯舟では職員との談笑や歌を楽しまれ、菖蒲湯や柚子湯等もされている。できる範囲はご自分で洗って頂き、希望に応じて同性介助も行われている。入浴を拒まれる方は無理強いせず、希望により入浴日や時間の変更を行ったり、声かけの仕方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は部屋で休むことが多いが、夜間はおおむね良眠している。夜間眠れなくて廊下に出てくる方がいるが、一緒に廊下を歩き本人の話を傾聴し不安を和らげ良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活日誌に本人の薬の内容を貼っており、常時目的等を確認している。服薬時は本人に手渡し確実に服用できたか確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	CDで音楽を聴いたり、ドライブ、買い物に行ったり一人ひとりにあった役割り、楽しみを提供している。		

49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行き社会参加をしている。季節ごとに咲く花見に行き、季節を肌で感じるようにしている。また、今まで住んでいた自宅に行って回想してもらっている。	コロナ禍も日向ぼっこ、畑で野菜の収穫、近くの公園、港にドライブ、花見(桜、秋桜等)、佐世保に買物ドライブを楽しんでいる。コロナ以前は地域のお祭り、地元の大島大橋公園などのドライブと共に、家族と自宅に行き、お仏壇の手入れをされたり、馴染みの商店の特売日に、ご利用者も一緒に砂糖や味噌の買物に行かれていた。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことは難しいが、本人の理解を得て立替金を利用して必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望により電話をしたり、手紙のやり取りをして本人の楽しみのひとつとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務所前や、適当な場所にソファを置いて談話をしたり、CDで音楽を聞いている。また、外が見える場所に椅子を置いて人の動きなどを見て憩いの場所になっている。	感染対策で玄関に置いていたソファを事務所前に移動した。そのソファに座って音楽を聴いたり、窓越しに来訪者を笑顔で出迎えている。廊下にはドライブや花見の写真、ホーム内でお手伝い(饅頭作り等)をしている写真を貼り、会話のきっかけにしている。ご利用者同士の関係性に配慮し、リビングのテーブルの配置を工夫し、職員とゆっくり会話したり、日々の活動(洗濯たみ、調理、テーブル拭き等)を一緒に行っている。2020年度に購入した空気清浄機や加湿器等も活用しており、2022年度は雨戸の設置を検討予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適当な場所にソファを置いて気の合う同士で談話をしたり、リビングにてテレビを見て有意義な時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスを居室に置いている。また、位牌や家族の写真を置いて心が和らげるようにしている。	掃除や換気等も適宜行っている。家族の写真や家族等からの寄せ書き、絵葉書を居室に飾り、お位牌に手を合わせる方もおられる。馴染みのタンスやテレビ等も持ち込み、居室で相撲等を見られており、裁縫が得意の方は手作りのハチワケを飾られている。ご利用者同士で1つの居室に集まり、ベッドに座って会話を楽しんでいる。	

55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>部屋の入口に本人の名前を大きく書いて貼ったり、トイレの場所がわかるように入口にトイレと大きく書いて貼って間違わないように工夫している。</p>		
----	--	---	--	--	--